

探訪 チャレンジ企業 37

リサイクル時代の申し子 株式会社クリーンファイア：内浦町

一 建設リサイクル法の 施行

平成十四年五月に建設リサイクル法が施行され、従来は一気に破砕していた構築物等を分別して解体し、再生利用することが義務づけられた。例えば古家を壊す場合は、コンクリート廃材、アスファルト廃材、廃木材に分別し砕石やアスファルト材、木材チップ等に再生して再利用せねばならない。

(株)クリーンファイアはこの条件を満たすために、(株)西中建設の西中会長が中心となり、



西中勝美社長

同業者七人が協力して生まれた企業である。設立は平成九年六月だったので待ちに待った法施行日の到来であった。

二 (株)クリーンファイアの 事業内容

同社の事業は、建設リサイクル法によって義務づけられている木くず、コンクリート破片、アスファルト破片等の中間処理（破砕）である。

解体や伐採によって発生した大量の廃材や切株等の木くずは、四〇〇t/日の処理能力を持つ大型破砕機にかけられ、木材チップに生まれ変わって、種子や堆肥と混合され道路脇の緑化や雑草防止に再利用される。

また、コンクリート破片は、内部に仕込まれている鉄筋等を取り除いて、別の破砕機にかけられ三四t/日の速度で粉砕される。同機で先に破砕されていたアスファルト破片と五・五の比率で混ぜられて、道路の締まりを良くするための骨材として舗装基盤に埋められ再利用される。

同社が存在することにより珠洲市郡の建設業者は廃材の処理に頭を悩ますことなく、安心して本業の土木建築に精を出すことができたのである。

三 奥能登の活性化のために — 珪藻土利用企業の再建 —

(株)クリーンファイア社長西中勝美氏は、内浦町松波に本社を置く土木建築請負業の(株)西中建設の代表取締役会長でもある。西中氏は、永年、土木建設業に従事してきたが、昭和五十七年に周囲から頼まれ、倒産した珪藻土会社の再建を引き受けることになった。奥能登振興に役立つならばどのようなことでもお手伝いするとのかねてからの信念の実践である。

珪藻土は奥能登に存在するほとんど無尽蔵といっているくらいの大資源であるが、引



リサイクルマシン



き受けたのはこれを利用してコンロを製造・販売する能登ダイヤ工業(株)と、その際に発生する粉を利用して壁材等の建材を生産する能登ダイヤトム(株)の二社である。

珪藻土には、調湿性、脱臭性、断熱性等の特性があり、家屋に塗付することによって、その快適性を高める働きをする。最近ではアトピーに効くことも判明してにわかに注目を集めているが、西中氏は、本業以外に併せて三社を経営せざるをえない羽目に陥ってしまった。しかしそれによって奥能登経済に大きな足跡を残すことになったのである。

四 経営上の課題

(株)クリーンファイアに話を戻すと、直面する緊急の課題は、木材チップの用途拡大である。道路法面の緑化に使うだけでは発生

量はあまりに膨大である。牧場に敷くのも一つの家だが、牛の蹄が割れないという保証はない。

考えた最良の方法は、チップを燃料として使い、電気を起こすことである。燃焼によって大気中に一旦は放出された二酸化炭素は樹木の生育過程で再び吸収蓄積されるので、クリーンエネルギーの代表格として喧伝されている「木質バイオマス発電」の燃料を供給していくことである。現在糸魚川市のセメント工場だけに限定されている出荷先をいかにして拡大していくかという大きな課題を背負い込んでいる。同じく健康と環境にやさしい珪藻土建材も社会的には全く未知といてもよいくらいであり、そのPRも今後の課題である。

(株)クリーンファイアと珪藻土二社の発展は(株)西中建設も含めて奥能登の繁栄を占う貴重なパロメーターであり、今後とも社会と関係先の絶大な支援と支持を必要としている。

(お問い合わせ)

株式会社 クリーンファイア

〒九二七〇〇六二九

石川県珠洲郡内浦町

字駒渡一四一一

TEL〇七六八〇七二一三二二

FAX〇七六八〇七二一三二二

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお訪ねください。